

図書館だより

2005（平成17）年

3月31日発行 第20号

TEL(0952) 52-4191 FAX(0952) 53-7869

*Serendipity*  
セレンディピティ

発行：西九州大学附属図書館

<http://www.nisikyu-u.ac.jp/library/home.html>

## 『附属図書館35年のあゆみ』



### 西九州大学附属図書館が開設35周年を迎えました

附属図書館開設35周年にあたり、『西九州大学附属図書館35年のあゆみ』を刊行することになりました。この刊行を記念して、座談会「これからの西九州大学附属図書館を考える」を行いました。出席者は、本学教員3名、学生2名、院生1名、神埼町中央公民館長、図書館職員で、それぞれの立場から有意義な発言がたくさん出されました。

特に、教員と学生と社会人がそれぞれの立場で意見を交換したり、図書館に要望したりするという企画は今までに無いもので、図書館の現在と将来を全学的な視野で検証するうえで意義深いものでした。

この座談会の内容は『35年のあゆみ』に掲載されていますが、より多くの方に『図書館だより20号』としてお届けします。

## 記念座談会

# これからの西九州大学附属図書館を考える



出席者	福 田 省 二 (神埼町社会教育課長兼中央公民館長)
	小 池 政 雄 (西九州大学健康福祉学部長、前附属図書館長)
	長 野 恵 子 (西九州大学健康福祉学部社会福祉学科教授)
	波多江 崇 (西九州大学健康福祉学部健康栄養学科助教授)
	矢ヶ部 陽 一 (西九州大学大学院健康福祉学研究科2年次生)
	東小浜 尚 (西九州大学健康福祉学部社会福祉学科4年次生)
	井 下 牧 子 (西九州大学健康福祉学部健康栄養学科4年次生)
	堤 慶 征 (西九州大学附属図書館 課長)
	森 永 泉 (西九州大学附属図書館 司書)
司 会	香 川 せつ子 (西九州大学附属図書館 館長)

## 附属図書館の現状と課題

### 西九州大学附属図書館とのつきあい

**香川** 今日は、西九州大学附属図書館 35 年を記念する座談会にご出席いただき、ありがとうございます。学生、院生、教職員、そして公民館長さん、様々な立場の方に来ていただいています。まず 35 周年ということで、これまでの図書館についてふりかえっていただけるでしょうか。

**小池** 私は佐賀大学を平成 13 年に定年退職して本学に着任し、最初の 1 年間図書館長を務めました。1 年はあっという間で、図書館の様子がわかってきた頃に別のポストに移り現在学部長を務めているので、今日はむしろ皆さんのお話を伺いたいと思っています。

**長野** 私は昭和 63 年に西九州大学に勤め始め、その当時図書館は 3 号館の階下の暗いところであり、本当に小振りだったのが、IT 型の図書館をめざすまでに発展してきて、いろいろな思い

を抱きます。大学院が開設され、さらに臨床心理コースも設置されて、院生の利用も最近一段と増えてきているかと思います。

**波多江** 私の方は平成12年に赴任しましたが、それまで総合大学にいましたので、小規模な大学に来ることに研究資料の面で正直不安がありました。そこでアメリカで活躍されている先生に相談したところ、最近は電子媒体があるので、検索する能力さえついていれば文献複写はどこでもできるから、大学の大小は、最新情報の入手についてほとんど差がなくなっているということを教えてもらいました。西九州大学図書館では、そういった文献検索の方法を新生にちゃんと教育されていることが特色だと思います。そのようなきめ細かな教育は、学生数が2万人もいるような大学では、図書館職員を総動員したとしてもできないことで、本学が誇るべきことではないかと思います。

**香川** ありがとうございます。在学生の皆さんは、入学以来どのように図書館を利用していますか。そのなかで日頃感じられていることを話して頂けるでしょうか。

**東小浜** 私は社会福祉学科、臨床コースの四年です。心理学系統の方で図書館を利用することが多くて、先生たちから教えてもらったこと以外でも、自分が興味あることについて積極的に図書館を利用しています。進路のことについて調べたり、社会福祉士国家試験の勉強に使ったりしています。

**井下** 私たち健康栄養学科はレポート、とくに実験のレポートなどで、よく図書館の資料を利用させて頂いています。

**矢ヶ部** 私は大学院の健康福祉学研究科で社会福祉コースに在籍しています。大学院に入って、図書館を利用する機会が増えました。学部頃は国家試験の受験勉強やレポートのための利用が中心だったのですが、院生になってから自分のテーマに即して主体的に文献検索をするようになりました。図書館にあるたくさんの情報から自分に必要なものを探し出し、吟味することが、院生に問われているように思います。

## キーワードは文献検索技術

**香川** 学部時代は国家試験やレポートが主だ



■ 矢ヶ部 陽一

ったのが、院生になると研究のため、修論のための文献探しに使うようになったということですね。その中で、こういうところはいいなとか、もっとこうだったらなと思われたことを聞かせていただけますか？

**矢ヶ部** 私は図書館のアルバイトで書架整理をしているのですが、図書の整理をしていく中で、今まで自分が全く知らなかったジャーナルや他大学の紀要、また新刊ばかりでなく古い本で自分の専攻分野以外のものを見ると、自分が知らなかっただけでこんなにたくさんのジャンルがあり、また自分のテーマに即したことでこんなに幅広い視点で書かれた本があるのだということを見つけて、図書館には多くの、思いもしなかった情報や知識が眠っているのだということを感じました。

**香川** 小規模な図書館ですけど、小さいなりに探し出せばいろいろあるということですね。先ほど波多江先生のお話の中で、大きい図書館にはない小さい図書館だからこそできることもあるのでは、ということをおっしゃいましたが。

**波多江** そうですね。文献について申しますと、毎月または毎週発行されているようないろんな学術雑誌がございますけれども、そういったものを実物、印刷物として品揃えがあるかどうかという点では、もう正直な話、総合大学には到底及ばない、ということから考えると、やはり電子媒体を使って検索するという点ですね。そういった面ではこの図書館では、しっかりと90分程度の時間を使って、検索の仕方を学生たちに教えてくださっているというところが、こういう大学に必要なことではないかと思います。検索する側のテクニックがないと、自分が目的とするような文献がひっかかってきません。そこで検索のための技術が当然必要な訳でし

て・・・。

**香川** 印刷物自体は少ないけれども、電子媒体を利用する技術、検索の技術などの教育に力を入れることが大事というお話で、西九州大学では利用者ガイダンスという形で、レベルを追って、一年生から四年生、院生それから先生方というようにプログラムを組んでやっています。学生さん、どうですか、これまで利用者ガイダンスを受けて、どんな感想をお持ちでしょうか？

**東小浜** 一年生の頃から四年生までガイダンスは一回ずつありますが、学年が上がるにつれて真剣に話を聞くようになってきました。さっき大学院生さんが言ったように最初の頃はレポートとかそういうようなもので強制的というか受け身的に行かされている感じだったのですが、学年が上がるにつれて自分たちでやらないといけないという主体性が出てきました。そういう意味では、検索の仕方を一年生の頃から教えて頂いたことはすごく大切なことだったのかなあとと思います。

**長野** 学生がどんなふうに四年間を過ごして最終的に卒論まで書くか、ということが教員側からみた教育のプロセスですけれども、その中で図書館の占める割合というのはかなり大きいものです。先ほど波多江先生が言われたように、検索の技術といいますか、「こういうキーワードで引いたけど出ません」と言って、それで引き下がってくるパターンの時に、図書館の方が、他のキーワードを組み合わせたらどうかといったようなフォローアップを細かにして頂くことで、可能になっていることがたくさんあると思います。それがこの西九州大学の良さではないかと考えております。

**小池** 文献検索指導は今、どういった状況になっているのですか？

■  
小池  
政雄  
(左)



■  
森永  
泉

**香川** 各学年の利用者ガイダンスの中で、一通り検索の仕方を教えていますね。

**長野** 年一回のオリエンテーションで、検索の技術を身につけている学生はいないのではないかと思います。一回習ったから、「じゃあ調べてきなさい」と言っても、それができる学生というのはたぶん十人に一人ぐらいで、ほとんどの学生はもう一回ここに来て手取り足取りのようにして教えてもらわないと、パソコンでの資料検索をうまくやって、自分のもやもやとした問題意識を明確にしていくようなことはできないのではと思います。

**小池** 時期を決めて、一定時間、指導があっているのでしょうか？そしたら例えば、今のお話のように、「それはもちろん聞いた、しかしあと一回か二回聞かないと私はどうもよく分からない」というような人が、時間をつくってどこかに行けば、ビデオで説明を見るとか、或いは直接指導が受けられるとか、そういうシステムがあるのかどうかですね。

**森永** レファレンスカウンターがありますので、そちらの方に申し出て頂けたら、丁寧にお教えします。学生さんの質問で思うのは、聞いていることがわからない時があることです。聞いて来られる主題がわからないのですね。そういうとき、こちらの方としては考えさせられます。例えば児童福祉関係について調べたいと言っても、学生さんのテーマが絞られていなくて、こちらでどの範囲まで教えたらいいのか、どういうふうに検索してやったらいいのかがはっきりしない場合があるので、テーマを絞って持って来て頂けると、的確な指導ができるかと思えます。

**香川** とくに卒論作成のための資料検索では、指導される先生たちと図書館との連携や協力関係が大事になるかと思えますね。

## 中央公民館との連携

**香川** さて、文献探しのことについてひと通りお話ししましたが、健康栄養学科では実験レポートづくりでよく図書館を利用されるというお話でしたね。

**井下** はい、そうです。二年・三年になると実験が始まるので、そのレポートで利用させて頂いたり、集団給食という授業があるので、献立を作ったりする時に料理の本などをよく利用しました。四年になると雑誌で国家試験の問題を調べ、雑誌によって解答が違ったりするのでいろいろ見比べたり、国家試験の勉強によく利用させて頂いています。

**香川** 国家試験は、社会福祉学科も健康栄養学科もどちらも大変ですね。司書の方たちから聞いた話ですけど、合格率の高い年度は皆さんが図書館を使ってよく勉強していた年でもあるようです。そんな風に、図書館の職員も後ろから眼差しでもって応援していますので、もっともって利用して頂けたらと思います。実験や集団給食のレポートは、グループでなさるのですか、そこでいろいろ不便は無いですでしょうか？

**井下** 料理の本で、専門的なものは多いのですが、一般的な料理の本の種類が足りなくて、置かれているものがずっと一緒だと料理も決まってくるのです。いろんな種類の料理を見たいというときには、佐賀市の図書館に行って借りてくるということもあったので、もう少し料理の本を増やして欲しいと思いました。また、カリキュラムが私たちの下の学年から変わったのですが、教科や教科書も変わって、そのときに新しい教科の教科書がこちらに置いてあると、今の時点でどうなっているのかということを見たいときに、もっと便利かなあと思いました。

**香川** 大学図書館では、蔵書を選ぶときに、古典というか、新しいものでもある程度時代に耐え得るものという基準で選ぶことが多いので、最新流行のもの、また社会福祉関係で言えばドキュメンタリー的なものが手薄になり、学生が卒論で扱う場合に佐賀市の図書館に探しに行ったということを耳にします。これからは時代に敏感に、そういったものもすばやく購入させね



■ 福田 省二

ばとは思いますが。神埼公民館の図書館では、蔵書の種類はいかがですか？

**福田** うち図書館でなく、まだ中央公民館の図書室なのです。15年度にIT化に伴って、検索ができるようにデータ入力をしましたが、冊数が9000冊しかないのです。もらった本などを整理して、それでも現在は9000冊の本しかないものですから、あとは一般のお客さんからのリクエストに応じて佐賀市の図書館と県の図書館、そういったところから借用をしているのですけれども、将来的には大きな図書館を、今度の合併を機に作らないといけなかなあというふうには思っています。

**香川** 今IT化のことが出ましたけど、佐賀県では佐賀大学と西九州大学、それから町や市の公民館全部をIT化して横断検索ができるシステムが今構築されているところですよ。

**福田** そうです。

**香川** そうなったら、ここの図書館から神埼町図書室の所蔵図書の検索ができて、その逆もできるということで、こちらも小さい大学ですし、神埼町も大きな図書室ではないから、おたがいに所有する書物の数には限界があると思うので、いい具合に機能分担ができればいいのではないのでしょうか。ここにはないものを神埼町にお世話になったり、また神埼町民の方がとくに専門的な福祉や食物に関する学術書を読みたい時には、こちらに探しに来られたり、そんな連携ができていけばと思うのですけど。

**小池** 私は大和町におりますけれども、大和町は最近図書館を作ったのですよ。いいことではあります。他方で市の財政をかなり圧迫しているような話です。検索技術がこれだけ発達している訳ですから、むしろそっちの方に力を入れて、いろんなところを利用させてもらいたい

うシステムを考えた方が得策じゃないかなあと  
思いますね。

**福田** 住民からは、図書館建設の要望がものす  
ごく強いのです。だから、将来的な町の建設計  
画の中で図書館建設については一番に考えてき  
たと思うのですが、財政がそれを許さない状況  
にあります。

**香川** やはり生涯学習社会ということですね。  
そうすると神埼町では、図書室を図書館に拡大  
されるわけですか。

**福田** まちづくり協議会の議題で出てくるの  
ではと思います。神埼町はそういう面では遅れ  
ていて、小城町や三日月町が大きい図書館をも  
っています。神埼郡にはどこにも図書館がなく、  
公民館の中に図書室を置いていて、本の冊数か  
らすれば郡内ではうちの図書室が一番多いです。

**小池** 子どもたちに検索技術を指導するとい  
ったようなシステムはまだないのですか？

**福田** まだないですね。たしかに夏休みに小・  
中学生が宿題を兼ねてよくやってきますし、たま  
に高校生や大学生、西九大生も来られます。

**小池** そうすると、今の図書室スペースのうち、  
半分は図書室、半分はいわゆる IT 関係の指導  
をするようなシステムを作っておけば、将来子  
どもたちはもうそういう技術を持った大人にな  
っていくのではないですか。

**福田** 以前、事務室の前にパソコンを置いてみ  
たら、子ども達がよく使っていました。

**香川** やはり町の図書館は住民の生活に密着し  
て、親御さんたちが子どもに絵本を読ませると  
か、小学生が学校の帰りに立ち寄って童話を読  
むとか、或いは、小説やノンフィクションなど  
比較的柔らかいものが多いと思います。そこから  
更につっこんで介護や栄養管理、また教育相  
談などについても、もう少し学理的に知りたい  
ときに大学の方にまで足を運んで頂くよう、そ

ういう形で皆さんの学習が深まっていくとい  
いなあという願いがあって、公民館に大学の図書  
館の利用のしおりや図書館だよりを置いてもら  
っています。東小浜さんは神埼町に下宿されて  
いますが、公民館の図書室を使ったことはあり  
ますか。

**東小浜** 公民館の図書室は使用しなかったの  
ですけど、子ども祭りなどボランティア関係で、  
公民館には日頃からお世話になっています。

**福田** 大学生の皆さんは、ボランティアでよく  
協力してくれています。公民館では、生涯学習、  
スポーツ振興、文化財関係の事業を行い、地域  
に密着した公民館として、住民の方が参加され  
やすい雰囲気作りを目指しています。

## 地域社会への開放

**香川** 蔵書や利用の仕方の問題から、段々と  
「これからの図書館を考える」という内容へと  
話題が移ってきましたが、地域社会との連携と  
いう点で、もっと具体的にありますか。

**小池** 地域の資料を集めておくと地域の方も  
利用するようになるかもしれない。葉隠れ研究  
会等もあるが、研究の発表の場がないという話  
を聞きます。

**福田** 公民館のなかの神埼町文化協会の中に、  
郷土研究会のコーナーがあります。

**香川** 神埼町の地域史の資料などがあればいい  
ですね。佐賀大学が小城町と一緒に小城藩の  
鍋島文庫を保存されており、そういうふうなも  
のがここにもあればと思います。地域に存在す  
る大学としての使命の一つですよ。地域の貴重  
な資料を集めて保存することも。

**小池** 地域の文献を集めていくとまた図書館  
の存在価値が変わってくるでしょうね。

**福田** その点、やはり地域の方は熱心ですから  
ね。

**香川** 小中学生の総合学習でも、地域研究とい  
う面で利用して頂きたいですね。現在、学外  
の方たちが本を借りに来られるのは、専門分野  
である健康関係や福祉、心理関係の図書が多い  
ようです。別に臨床心理士になることを目指して  
なくても、例えば子育てで悩んでいる親の方々  
や学校の先生などですね。福祉や心理、食物に  
関しては佐賀県では、西九州大学に行けば必ず

■  
東  
小  
浜  
尚



■  
長野  
恵子  
(右)



あるというような形で、特色ある蔵書づくりをしていけたらと思いますね。他大学の学生さんたちが、借りに来られることもありますよね。

**森永** 学生の卒論を見に来られることもあります。自分の卒論の参考にしたいということで。他には、栄養士の方が国家試験の勉強に見えたり、禁帯出の図書を閲覧に来られたりしています。社会人の方が利用されたり、卒業生が国家試験の勉強に来たりもしています。

**香川** 社会人の方がそういう資格試験のために、アフター・ファイブを利用して勉強されるのですね。神埼町で最も利用される層は、どんな方たちですか。

**福田** そうですね。子ども連れのお母さんも多いですが、平日は高齢者の方も多いですね。もう60歳を過ぎて退職した方が、調べものに来られたり…。

**長野** 神埼の高齢者の方は、「幸齢セミナー」に大勢参加して頂いています。その方々に、西九州大学の図書館を利用してもらうのも良い案ですね。

**福田** 公民館の高齢者教室の参加者も250人ほどいますが、高齢者の方は確かに熱心ですよ。しかし、大学図書館を利用できることは念頭にないようですね。

**長野** まず、知って頂くということが大事だと思います。こっちでニーズを押し量っているものを用意して、「さあどうぞ来てください」というものもあるかもしれないけど、まだ十分でないにしても知って頂く中で、「こんなものがあったら」という地域の方の声を聞きながら中身を充実させていく。子どもさん連れだったら、公民館の方が便利かもしれないけど、ゆっくりと静かにしたいならば大学の方でという、棲み分けみたいなものもいいかもしれませんね。

**森永** 一度、高齢者の方が新聞を見にみえて、

その時に老眼鏡はないかと言われたことがありました。大活字本があれば、もっと利用されやすいかなと思ったんですけど。

**香川** 確かに神埼町の公民館では老眼鏡が図書室に置いてありましたね。高齢者の方にも利用して頂けるように。

**小池** 大学は結構自分ではPRもしているようなつもりではあるけれども、あまり知られていないんですね。

**東小浜** きっかけがないと、来づらいかもしれないです。大学祭のにこにこふれあいデイや、それ以外でも、地域の人たち、例えばお年寄りの方とかお母さん方と交流するイベントのようなものを何回かやっていたら、たぶん浸透していくんだと思います。

## 西九州大学附属図書館への期待

### 図書館機能の充実のために

**香川** まず幸齢セミナーやにこにこふれあいデイで来られている方たちに利用して頂ければ、そこから口コミで広がって知られるようになるかもしれませんね。さて、図書館の施設・設備面での使いやすさについては、どうでしょうか。

**福田** 私は今日大学にやってきて、図書館まで来るのに迷い、学生さんに聞いてやっとわかりました。一応、事務局や構内の掲示板も見たのですが。

**香川** 場所がわかりにくいですね。キャンパスの真ん中になれば便利なのですが。それにグループ学習室も必要ですね。ゼミでまとまって利用し、かなり大声で話しあっているのを見かけます。健康栄養学科でもグループ研究をする際に、ゼミ室や実験室があるとはいっても、本や情報のある図書館で相談したいこともありますよね。



■  
香川  
せつ子

**波多江** ある大学では自習室があるのですが、白衣の学生が本に頭を埋めて寝ていたりします。あそこだと個室だし声をかけられないですからね。医学部の図書館は二階に古い本が置いてあってほとんど使わないので、そこを自習室という形にして、そうすると、そこでしゃべってもいいし…。蔵書面では、専門書以外の特色あるコレクションがあればいいですね。

**矢ヶ部** 学生や院生が、自分たちの読みたい図書の購入希望を出すときに、個人だとなかなか頼みにくいところがあるので、ゼミ単位で購入したい本の希望をまとめて出せたら、雑誌とか金額の高い本も購入できるようになるかもしれないなあと思います。

**森永** 学生さんからの希望に添えるように、図書のリクエスト・コーナーを設け、またブラウジングコーナーにも「あなたの声を聞かせてください」ということで意見箱を置いています。

**香川** 確かに図書館を媒介にして、院生や学生さんが交流するというのも大事ですね。資料についての情報を交換したり、検索のしかたを先輩から教えてもらったり。そうしているうちに、雑誌や図書の購入希望がまとまって出てくるかもしれません。雑誌の文献複写依頼にあがっているものを見ていると、結構同じ雑誌で、記事は違うということがあがる。複写希望の多い雑誌は、図書館で購入した方がいいと思いますね。

**小池** 図書館が学部学生と院生の橋渡しの場になればいいですね。大学院の授業で文献管理学を開講して、履修する院生に準図書館員のような役割を担ってもらったら、どうですか。

**香川** 文献管理学の実習の場を図書館にして、書誌学や文献検索、リサーチの仕方をマスターし、学生の指導も試みてもらうというのはいいアイデアですね。

■  
波多江  
崇(左)



**波多江** 健康栄養学科の場合は四年生になって初めて卒論の配属をするので、そのときにはもう上級生が卒業してしまっているから、どの研究室がどんなことをやっているかわからない状態です。私のところには院生がいますが、他の院生がいない研究室の場合は、図書館に院生が常時いてくれてどういう研究ができるのかなど教えてくれればありがたいですね。院生の研究をみながら、学生が卒論のテーマなども相談できるようなら、とてもいいと思います。

**香川** 西九州大学のなかでの学术交流の場として、図書館が機能するということですね。

**小池** 本が置いてあって、そこで読んだり借りたりするというだけの場所ではなくて、もっとアクティブに活動する図書館になるということです。

**福田** うちでは昔は移動図書館があり、集落を巡っていたのです。周辺の子もたちがやって来ていましたが、そのうち来る人が段々と固定してきて、自家用車も普及してきたので、いつの間にかやめってしまったのですけど。利用者を待っているのではなく、利用者の側へと出かけていくことは大事ですね。

**波多江** 本を買うにしても、教員の目から見て必要な本ばかりじゃなくて、先ほどの学生さんのお話のように、学生が必要としている本をもっと充実していく方が、利用は増えるだろうと思います。

**長野** 職員と学生との交流という点では、図書館をバックアップするボランティアグループのようなものが必要なんじゃないでしょうか。

**香川** 大学内に図書サークル、図書館同好会みたいなものがあるといいですね。図書館を支え向上させるボランティアサークルが、学生さんたちを中心にできればありがたいです。市の図書館やアバンセでも、住民のボランティアが盛んですよね。

**福田** うちも夏休みには、大学生が公民館で何かボランティアさせてくださいとやってきますよ。

**香川** 利用者の参加で図書館が活性化してくんいですね。

**東小浜** イベントにしてもボランティアにしても、したいとは思っても、どうすればいいのかわからないということがあって……。新

しいものを作るのだったら、どんなことをするのかということ、先生方に相談できたり、わからないことを聞ければ、図書館という場でもいろいろできるんじゃないかと思います

## IT型図書館をめざして

**香川** いろんなアイデアが出てきましたが、西九州大学図書館は21世紀型のIT図書館をめざしています。情報検索や利用者ガイダンスの話がすでに出ていますが、ここでITに関する最新の取り組みを、課長さんからご説明いただけますか。

**堤** 大学の中期目標・中期計画の中で、IT型図書館の在り方に関する検討・施設の拡充を考えていまして、16年度のアクションプログラムとして、早速取り入れようとしているのがSDI (Selective Dissemination of Information) というシステムです。先生方が自分の関心のあるキーワードを登録して頂きますと、それに関する新しい図書または文献が出たときにメールで配信をしてくれるシステムです。そのデータベースは洋図書と洋雑誌(英独仏)の目次、これは大英図書館(BL)が作成しているものです。それと丸善が収集した和図書の出版情報、それが利用者のところにメールで届くようになります。また、図書館のホームページに電子カウンターの役割を持たせるということで、本年度はカレンダー、開館や閉館、臨時の休館日を掲載しています。まだ公開はしていませんが、図書館日よりや大学紀要をPDFで読めるように準備を進めています。もうひとつは、国立情報学研究所(NII)が提供している電子図書館サービスを、機関別定額制で利用できるようになりました。電子媒体の話をしめすと17年度には今取っている外国雑誌で、電子ジャーナル込みの価格になっているものもありますので、それを学内LANの端末で見ることができるよう、また18年度にはそれ以外の電子ジャーナルを取得することも計画しております。

**香川** NIIのネットワークシステムへの加入で、文献複写や相互貸借など、他大学図書館との連携は盛んになる一方ですね。

**堤** 文献複写や相互貸借が鰻登りに増えて、今まではこちらから依頼する方が多かったです



■ 堤 慶征(左)

けど、最近是他大学から申し込みを受ける方も増えてきて、それに対応するためにフェイスアップという画像入力転送システムを17年度の予算として要求しております。16年度は10月末で、本学からの依頼が年間1000件弱あり、他大学からの受付も700件近くありますね。

**波多江** 西九州大学図書館も一人前になったということですね。

**香川** 料金相殺制度が導入された影響もありますが、自分のところのないものを依頼して来られるわけだから、それだけ特色ある図書や雑誌があるということで、内容的に充実してきたのだと思います。

**波多江** 紀要の方はどうなっているんでしょうか？西九州大学の紀要は、J-Dreamでは検索できないですね。

**堤** J-Dreamの方にも一応送っています。大学紀要の著作権処理が去年済みでしたので、NIIのデータの検索にヒットすればPDFで見られるようになりました。紀要34号からはNIIのホームページでPDF化してもらいます。

**波多江** 紀要は、せっかくいろんな方が研究なさった結果なので、できるだけ読んで利用して頂きたいですね。

## 明日の図書館にむけて

**香川** 今日は「明日の図書館を語る」ということで、皆さんにたくさんの意見を頂きました。もうすぐ卒業する四年生の方や院生の方にとっては、置き土産となるかもしれませんが、もう一言ありませんか。

**井下** 私が高校生の際は、図書館といえば市の図書館くらいで、大学の図書館というのは全然イメージがなかったし、大学に図書館があるということすら知らなかった状態だったので、もうちょっとアピールして知ってもらったら、外

■  
井下  
牧子  
(左)



部からも利用される図書館になるんじゃないかなと思いました。イベントやいろいろな場で図書館の紹介をして、まず大学に図書館があることから知ってもらい、それから自由に出入りできるということも知ってもらいと、どんどん外からの利用も増えていくんじゃないかなあと思いました。

**福田** やっぱり一般には、大学の図書館は大学生しか利用できないものという認識しかないんですよ。だから、公民館かなんかにチラシでもいいので、「一般の方も利用できますよ」というようなちょっとしたPRをしたら、少し違うかなと思いますよ。

**香川** 有名人を招いた文化講演会などを、町と共催でできるといいですね。

**東小浜** 大学生も地域の人たちも、イベントには興味があると思うんですね。地域にちなんだ特色のある人を呼ぶと、来る人もいるかなあと思っています。大学の図書館は誰でも利用できるのですから、例えば老人の方とか障害者とかどんな人でも参加できるイベントをすることで、まず知ってもらうことが大事じゃないかと思います。

**長野** 高校生には、オープンキャンパスがありますから、キャンパスツアーで図書館に連れて来て利用法を知ってもらえば。学園祭とタイアップして。また、こちらから直接高校や、小中学校に発信したりもできますね。

**香川** 図書館のイベントを通して、教師と学生とのつながりを深めるのもいいですね。

**波多江** 教員が図書館に行って勉強している姿を見せて、「ああ、授業をするのにやっぱり勉強しているのだ」というのを伝えるのもいいのかなという気がします。

**長野** 図書館に来てゆっくり時間を過ごして、勉強したり本を読むということと、手っ取り早

く自分の研究室のパソコンから情報を入力したいという、二つの願望がかなえられればベストかなと思います。

**香川** そうですね、IT化を進めるほど、研究室から検索もできるし文献複写の申し込みもできるようになって、だんだん図書館に足を運ばなくてよくなりますものね。確かに、両方の面が必要ですね。

**小池** 今までの図書館っていうのは、図書館があつてそこに外からお客さんがやって来てその場で本を読んだり、或いは借りて帰ったり、こういうイメージだったかと思いますが、これからは図書館が外にアクションを仕掛けていかななくちゃいけない時代に入っていくと思うんですね。そういったことを踏まえてどうあるべきか、学生諸君と教員と、大学全体が一体となって図書館の運営を考えていくべきじゃないかという気がします。

**香川** 最後に、公民館長さんから、どうぞご要望やご意見を。

**福田** せっかく地元で西九州大学がありますので、これからは有効的に活用させて頂きたいと思いました。開かれた図書館ということで、うちの公民館でも一般の方が寄りつきやすいような図書館になるよう、お互いに連携していけたらなあと思います。

**香川** 長い時間、ありがとうございました。これからの大学図書館の在り方について、ひとつは地域社会に開かれた図書館として、またもうひとつは情報化社会に対応するIT型の図書館として発展していくために、貴重なヒントを頂きました。図書館をつくり出していくのは利用者と職員とそれから地域の方々だと思いますので、どうぞ今後とも宜しくお願い致します。皆さんから頂いたご意見は、STEP BY STEPで実行していくようにしたいと思います。



## 県内図書館のネット化（蔵書の横断検索が可能に）

県内の公共図書館と大学図書館の蔵書を一括して検索できるシステムが構築されます。12月14日からの一次運用では、県立図書館と佐賀、唐津、多久、伊万里、武雄、鹿島の6市と大和町、小城町、福富町の公共図書館を結び、第二次運用（2005年3月予定）で鳥栖市、上峰町、三日月町、塩田町の公共図書館と佐賀大学、西九州大学の附属図書館が加わります。

アクセスは、県立図書館のホームページからになります。

## 図書館のネット化を伝える佐賀新聞

(2004年12月15日付)

**蔵書検索、簡単に**

**10図書館をネット化**

県教委が新システム  
来春には大学施設も

県立図書館と佐賀、唐津、多久、伊万里、武雄、鹿島の6市と大和町、小城町、福富町の公共図書館の蔵書を一括して検索できるシステムが構築されます。12月14日からの一次運用では、県立図書館と佐賀、唐津、多久、伊万里、武雄、鹿島の6市と大和町、小城町、福富町の公共図書館を結び、第二次運用（2005年3月予定）で鳥栖市、上峰町、三日月町、塩田町の公共図書館と佐賀大学、西九州大学の附属図書館が加わります。

アクセスは、県立図書館のホームページからになります。